

指定
ごみ袋

「強制導入」重ねて抗議

日本
共産党

「丁寧に説明する」と
何度も言っていたのに…。



4月1日以降、市内各地のごみ
集積所には多くのごみ袋がとり
残されています。

おむつ使用世帯への 指定ごみ袋一部無料支給…

指定ごみ袋の使用強制をするため、おむつ使用世帯への無料配布(年間経費1155万円)をスタート。0~3才児約9400人と要介護者(障害者含む)約2200人へ、一人・月2枚(30%)を配布します。例えば、0才の赤ちゃんがいる世帯には、3年分90枚を一度に郵送する一方、要介護者には申請・クリーンセンターによる確認後、やっと支給されます。

「指定袋」と「透明・半透明の袋」の併用にするだけで、経費・送料・申請・確認は不要となり、各家庭での指定ごみ袋購入や自治会内の混乱は解消されます。

1 「導入根拠に誤解があった」とお詫び

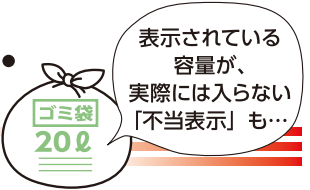
市が繰り返す導入根拠…「燃やすごみの中に重量比で3割近いプラスチックが混在」は事業系を含めごみ総量をまとめたもの。「家庭ごみ」だけの話ではありません。しかも市の最新資料(直近5年間の比較)によれば、「家庭ごみ」は10%の増加にとどまる一方、「事業系ごみ」は28%も増加。しかし市長は「(事業系ごみ)削減に向けた具体的指示はしていない」と答弁しました。

2 指定ごみ袋の売上数・定着率は「把握していない」

3月になっても、売上数も定着率も「把握していない」と市は答弁。市民や自治会等で不安が広がるのも当然です。分別はされているものの、指定ごみ袋を使用していないため取り残された家庭ごみの回収について、日本共産党の追及に、「公衆衛生等から個々に判断する」「クリーンセンターに連絡を」との答弁にとどまりました。

3 値上げの可能性…「否定できない」

今でも高い指定ごみ袋は、ほとんどが輸入品。原油等高騰を理由にさらなる値上げの可能性も生まれています。



南流山中学校 移転・開設

保護者らの運動で 教育環境を守り、改善へ



利用できる敷地が広がります。
グラウンド(手前)と、第二体育館(奥)です

人口増加を背景に、旧東洋学園大学跡地の一部へ南流山中学校移転計画が浮上。さらに、私立中学校も隣接させる計画案を市長が表明してから1年半になります。

日本共産党市議団は、議会内外で課題を提起し、保護者らと一緒に声をあげてきました。私立中学の撤退もあり、旧大学跡地全体を南流山中学校で利用できる可能性が大きく広がっています。引き続き、次世代を担う子どもたちへ、より良い教育環境を保障しましょう。

- 生活訓練サービスを利用する障害者にも通勤補助拡充
- 自殺対策を予算化



福祉

- 妊娠・出産・育児サポート係の新設
- 多子世帯への保育料軽減措置の対象年齢拡大
- 医療的ケア児(人工呼吸器等を使用し、たんの吸引等の医療的ケアが日常的に必要な子どもたち)への保育に伴う看護師人件費の補助を予算化

子育て

今年度、市民との協働により、願いが実現します。「やっと実現した!!子どもが多い世帯にとって本当にうれしい!」「障害があっても、自立に向けて生活訓練を受けています。片道629円の交通費負担が軽減されることは励みになります」…市民からは喜びの声が寄せられています。

願いが実現します

- 道路維持補修費を大幅増額(100%市内事業者発注)

まちづくり

- いじめ等防止対策推進事業を大幅に増額
- 学校給食費のすえ置き

教育

